

日本語日本文学専攻博士後期課程の概要と特色

本課程は後期3年の課程で、博士前期課程との連続性を重視した積み上げ方式である。教育・研究の内容は、日本文学と日本語学の2研究分野を根幹とし、これに関連分野を配した。根幹をなす2研究分野は、特殊講義と研究指導の軸をなす課題研究とで構成する。

(1) ディプロマ・ポリシー

日本文学・日本語学それぞれの体系的および総合的な基礎的研究能力や横断的学識を証明する十分な単位を修得し、これらの2研究分野の中で特に深く研究する分野での高度専門職業人としての基礎的問題解決能力を身につけていることを証明する博士論文を作成し、作成した博士論文が審査に合格して、さらに最終試験に合格すれば、博士（文学）の学位が授与される。

なお、本専攻では、学生がその研究を組織的・体系的に深化させ十分な学問的水準を満たした学位論文を作成して学位を得るために、次のような手順を定めている。

- ・ 専攻として年3回の研究発表会の機会を設けている。各学生の博士論文提出の目標年次にねらいを定めながら、計画に応じて、各回の発表の機会を利用し発表を行うことで、研究の意義と目標、現在の達成度と今後の見通し等について評価を受け、検討を加えることにより、着実に博士論文の全体構想を確認し完成度を高める。
- ・ 提出後の口頭試問。主査1名と副査3名によって、審査を行う。
- ・ 学会誌への投稿・掲載。学生は学位論文提出の時点までに、研究内容の一部を査読付きの学会誌に投稿・掲載し、自らの研究を公にして広く学術的評価を受けておかなければならない。

(2) カリキュラム・ポリシー

日本文学と日本語学の2研究分野を根幹とし、これに関連分野を配し、それぞれ次のように構成している。

日本文学研究分野の古代中世文学特殊講義および近世近代文学特殊講義においては、古代中世文学を代表する和歌・物語と近世近代文学の小説等を中心とする科目を核とし、文献学および文芸学の両面から文学研究の方法について指導している。これに、文学史の時代区分を基準として各時代の作品研究の科目を配することにより、日本文学に関する幅広い知識の修得と、ジャンル・作品に即した専門的研究が可能になるよう配慮している。

日本語学研究分野の日本語学特殊講義においては、他言語との対照研究をも含む現代日本語の諸問題を幅広く追求するとともに、古代語の文字表現に関する研究、語彙の種々相に関する研究など、多様な領域・対象を扱う科目を配することにより、多角的な視点と方法による日本語の共時的・通時的研究を深めることができるよう配慮している。

関連分野では、日本思想史・日本民俗学・和漢比較文学・キリスト教思想史に関する特殊講義を配している。

(3) アドミッション・ポリシー

本課程は、修士課程設置に際して設定した目標を継続発展させ、高度な専門性を持つ職業人を育成することを第一とするとともに、高度な研究能力・学識を持つ研究者を養成することも目的とする。このため、専門研究の深化を図るとともに、研究職・教育職をはじめとする各種の専門職に幅広く適応しうる高度専門職業人たらんとする意欲的な学生を求める。